

はちおうじ
八王子遺跡

調査の経過 八王子遺跡は一宮市大和町荏安賀に所在する。発掘調査は東海北陸自動車道の建設に伴う事前調査として、当センターが平成7年度から継続して実施しており、本年度が最終年度にあたる。今回は1調査区のみであり、平成9年5月～7月まで実施し、面積は247㎡である。

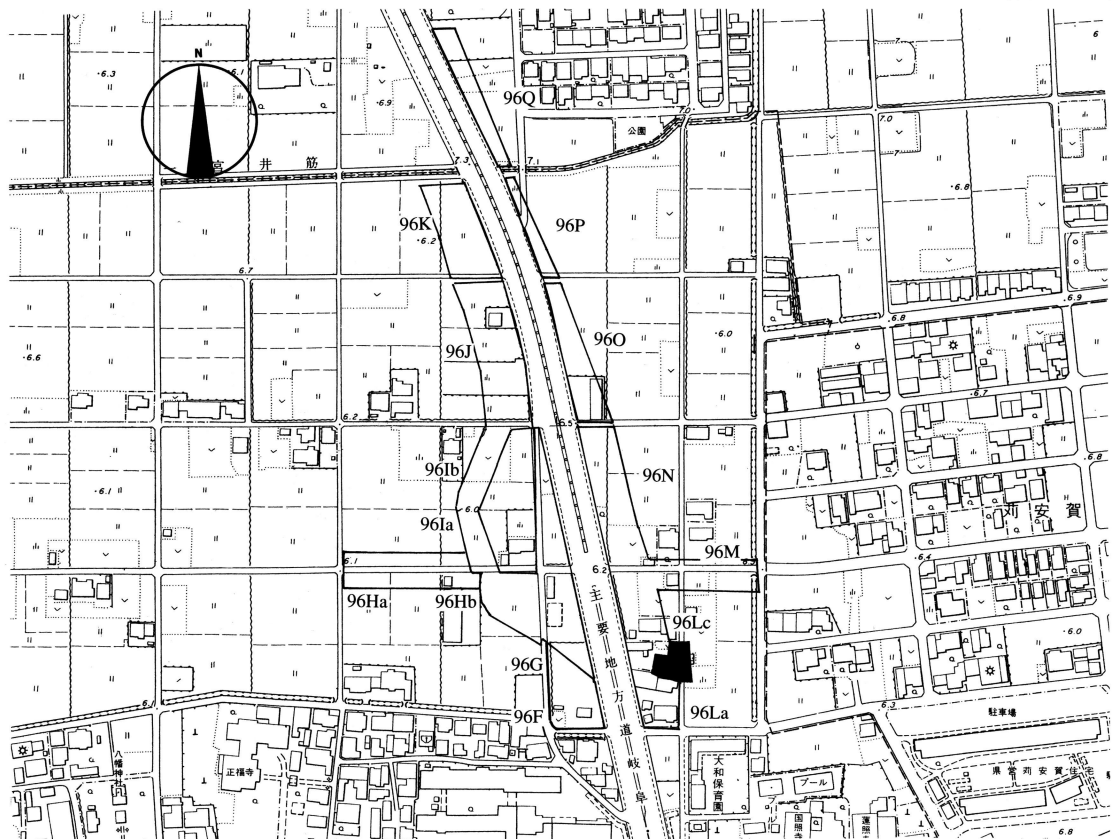
本年度の調査区は、昨年度までの成果によれば弥生時代後期から古墳時代にかけての遺構群が密集する区域に位置しており、住居群の検出が予想された。結果は、複数の竪穴建物が重複して検出されたほか、中世の区画溝も検出した。

竪穴建物については、近世以降の削平が激しいために輪郭を確定できた例はわずかであった。土坑も若干の検出にとどまったが、うち1つからは良好な状態で土器群が出土した。土坑は、長軸0.9m、短軸0.4mで、深さは0.3mを測る。埋土は炭化物層が複数枚累重しており、また掘り直しもされているようであった。

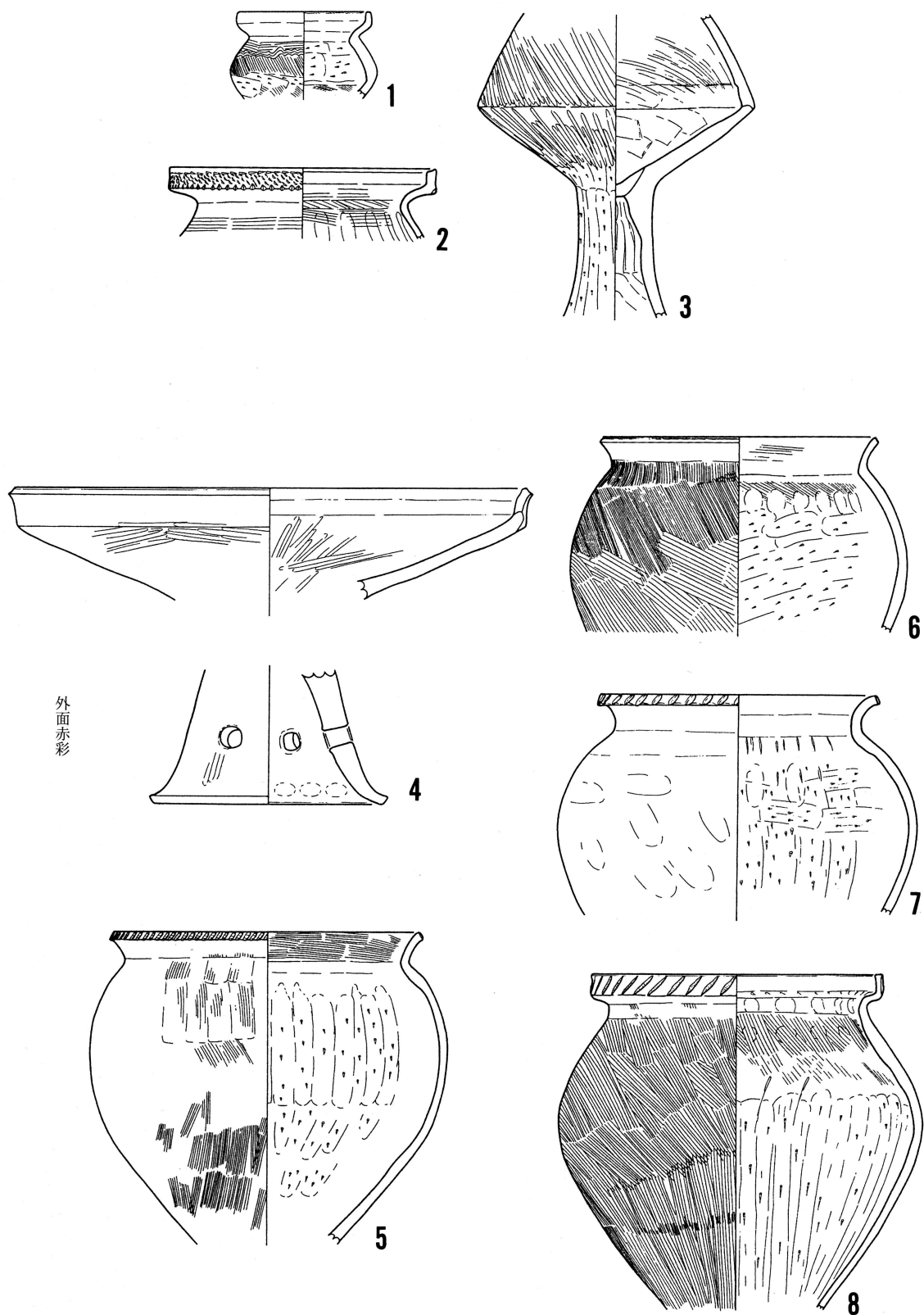
出土土器には高杯・甕があり、壺は残念ながら含まれていなかった。高杯や甕の特徴は、従来「山中期」といわれている資料を遡るものであり、後期の始まりを考える上で貴重である。また、八王子遺跡の居住域の変遷過程において、この時期に意外とひろがりが見られることは他の遺跡と大きく異なる点であり、尾張平野部における集落の展開を考える上で重要な成果を提供している。

今後は報告書の完成にむけて、多くの課題を解明していくことが必要である。

(石黒立人)



第1図 調査区位置図 (1:5000)



第2図 遺物実測図（4～8土坑出土 1：4）